



シラバス作成のガイドライン

【2022 年度版】



目次

シラバス作成のガイドライン	1P
シラバスの入力ガイド	2P
ラーニング・アウトカムズ（共通科目）	9P
ラーニング・アウトカムズ	
経済学部・法学部	10P
文学部	11P
経営学部	12P
教育学部・理工学部	13P
看護学部・国際教養学部	14P
別紙 実務経験の有無についての入力例	15P
参考 該当事例（文科省資料より）	16P

【 シラバス作成ガイドライン 】

【1】 シラバスについて

シラバスは講義の方針や学習計画を学生に周知する目的で作成されるものです。シラバスには科目名、科目ナンバリング、担当教員名、単位数、開講学期、授業概要、到達目標、事前事後学習の内容および授業参加に必要な学習時間、成績評価方法とその基準、使用教材、教員との連絡方法、そして毎回の授業計画など、学生が講義を受けて単位を修得するために必要な情報がほぼ含まれています。学生はこのようなシラバスを参考にして、履修科目登録時に科目選択を行ない、受講することになります。つまり、シラバスは受講する側の学生にとって不可欠なものです。

【2】 シラバス作成の意義

大学で行なわれる個々の講義は大きな学問体系の枠組みとしてのカリキュラムの中に位置づけられています。そのため、自分の担当する科目と他の科目との関係に配慮することが必要です。

また、シラバス作成に当たってはPDCAサイクルを意識して作成することが重要です。すなわち、科目目標と適切な授業計画などは①Plan（目標設定）であり、②Do（実行）は単位の実質化（シラバスに従った授業運営、成績評価基準の明確化）、③Check（点検）は成績評価の厳格化（学生や担当者自身、同僚による評価結果のチェック）、そして④Action（改善）では、個々の教育内容・方法の改善と教育課程編成（カリキュラムの中のシラバス）や組織運営全般の改善などを行ないます。PDCAサイクルを継続的にこなうことで、授業の改善につなげることが重要です。

【3】 シラバスシステムへの入力について

本学ではシラバスは日本語と英語の2つの言語で作成できるようになっています。日本語で行う授業も留学生のために、英語化を推進しています。

以下では実際にシラバスシステムに入力するに当たって、注意すべき点を記載していますので、確認のうえ、必要事項を漏れなく入力してください。

なお、シラバスは公開前に学部長等により入力内容が適切であるかの点検が行われます。内容等に不備があれば、修正を求められます。

■留意点

- ① 英語のみを入力する科目は、日本語シラバス入力欄（画面左側）は空欄のままで結構です。
- ② 科目単位での入力ではなく授業（コマ）単位での入力となります。
- ③ 過去及び他のシラバス情報を検索、コピーすることができます。
- ④ 入力途中の状態での一時保存ができ、「担当授業一覧」で進捗状況を確認できます。

< 2022年 カマニュアル >

■ 2019年度 シラバス 情報入力画面 (授業コード: R25801)

<p>■科目名 / Course Name</p> <p>アフリカ経済論 / African Economics(2単位) アフリカ経済論 / The African Economy(2単位)</p>	<p>■教員名 / Instructor Name</p>
--	-------------------------------

シラバス情報の入力時、ポータルサイトを複数ウインドゥで開いての作業は行わないで下さい。
正確な情報がセットされません。

When entering a course description, please do not work with different multiple browser window
If opening more than one window, the course description information is not set correctly.

If you have any question about your course syllabus on the portal site or user name, please ask
E-mail Address : kyoumu@soka.ac.jp
Phone Number : 042-691-2203

◎英語シラバスを入力する教員の方へ

日本語シラバス入力欄(左側)の内容を英語シラバス入力欄(右側)に移動する機能

別のシラバスからコピー / Copy from previous course description

演習用シラバスからコピー / Copy from seminar description

日本語シラバス欄 から 英語シラバス欄へ一括切り取り / Cut and paste the data from Japanese syllabus to English syllabus

日本語シラバス欄から英語シラバス欄へ一括コピー / Copy from Japanese syllabus to English syllabus

一覧画面にもどる / Return to course list

※ 申請・一時保存ボタンは、このページの一番下にあります。 / "Submit" and "Save" buttons are at the bottom of this page.

(*)印は必須項目になります。必須項目を入力しないと、申請できません。
Items with an asterisk (*) are mandatory.

テーマや講義名を 20 文字以内で入力できます (任意項目)

日本語シラバス入力状態 / Japanese Syllabus Status

入力中

【ヘルプ】英語用入力項目について:

青枠の項目は、英語シラバス用の入力フィールドです。
英語シラバス用の「申請ボタン・一時保存ボタン」で操作して下さい。

Blue frame field is for the English syllabus.
Please use in the "Submit" "Save" button for English syllabus

英語シラバス入力状態 / English Syllabus Status

未入力

■テーマ

■授業概要 (*)

Course Sub Title (for general course and seminars)

General Description (*)

英語シラバス用の入力欄
※右側が英語入力欄 (緑枠)

■到達目標 (*)

【ヘルプ】記入について:
「到達目標」の記述は「現実的かつチャレンジングなレベル(成績評価ではBレベル以上)」に設定することを原則とします。ただし、他のレベルで記述する場合は、設定レベルを明記して下さい。

全員ご記入ください。200字程度

Goals and Objectives (*)

Note: Please add detail to your learning objectives.
Please set the general and the specific objectives of your course at the B level or higher.
If you wish to set different level(s), please state clearly, so that your students understand the differences.

英語シラバス入力欄(右側)は全角入力不可。
全角の文字や記号が入力された場合、「申請」できない。もし全角が入力された場合、入力欄の背景色が変わる

(専門科目の場合 例：経済学部)

- 1. 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる
By applying the principles of economics, logically understand and analyze social phenomena from multifaceted viewpoints
- 2. 数量的・統計的データを正確に理解することができる
Accurately understand quantitative and statistical data
- 3. 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる
Develop a good solid knowledge about the Japanese and global economy and different societies, and apply such knowledge
- 4. 経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる
Accurately understand other points of view in Japanese and English, and clearly communicate their own ideas concerning economic issues
- 5. 世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる
Understand the diversity of the world and the many-facets of economic and social issues and engage in reasoned discussion
- 6. 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成することができる
Develop self-discipline through the study of economics, and cooperate with others to achieve their own goals
- 7. 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる
Suggest approaches and initiatives for the development of society and people's happiness through economics

■共通科目または各学部ラーニング・アウトカムズとの関係 / General Education / Faculty Courses: Most relevant Learning Outcomes for this course. (※)

ラーニング・アウトカムズとの関係を 8 つの項目から必ず 1 つ以上選択して下さい。

(共通科目の場合)

■共通科目または各学部ラーニング・アウトカムズとの関係 / General Education / Faculty Courses: Most relevant Learning Outcomes for this course. (※)

【ヘルプ】 選択について:
選択は、最大3項目まで選べます。一番比重をおく項目には◎、その他には○を選択します。

Note: To choose
You can choose up to three learning outcomes. Please select ◎ for the primary learning outcome and ○ for any secondary learning outcomes (optional).

- 1. 人文、社会、自然科学、健康科学領域の基礎知識を理解する
Students will learn basic knowledge in the area of humanities, social sciences, natural sciences, and/or health sciences.
- 2. 多面的から論理的に思考する
Students are able to think critically and reason logically.
- 3. 問題解決に必要な知識・情報を適切な手段を用いて入手し、活用する
Students are able to gather and use necessary information to solve problems using appropriate methods.
- 4. 日本語による多様な表現方法を取得し、明確に表現する
Students are able to clearly express Japanese language in various ways.
- 5. 英語と母語以外の他外国語でコミュニケーションを図る
Students are able to communicate in English and other foreign language (other than their first language).
- 6. 学びの意味や社会的責務を考え、自らの目標を設定し、自立(律)的に学ぶ
Students are able to learn independently by setting their own goals. Students will be responsible for their own learning.
- 7. 自他の文化、伝統を理解し、その差異を尊重する
Students are able to understand their own and others' culture and traditions. Students will learn to respect others.
- 8. 人類の幸福と平和を考え、自己の判断基準を持つ
Students are able to develop their own criteria to think about human happiness.

▼印をクリックすると、◎や○を選べます

■SDGsとの関連性 / Relationships between your class and SDGs: (*)

【ヘルプ】
 17の目標の詳細はこちら(総務省仮訳) / Click here to check the details about the 17 goals. (translated from Japanese)
 参考(References): 総務省HP、United Nations Website (Sustainable Development Goals page)
 SDGsとの関連性がある場合は「あり/Yes」、ない場合は「なし/No」を選んでください。
 関連性がある場合:
 - 「◎」非常に関連性がある
 - 「○」関連性がある
 自由記述欄は任意ですが、関連性を入力した理由についてご記入ください。
 If there is any relationship between this class and SDGs, please select "あり/Yes". Otherwise, just select "なし/No".
 If there is any relationship between this class and SDGs:
 - Please enter "◎" for the goals that you consider it is relevant. (You may select one or more.)
 - "○" Relevant
 Filling out the additional comments is not mandatory, it would be grateful if you describe the relationship between this class and SDGs.

なし/No

GOAL1	貧困をなくそう	
GOAL2	飢餓をゼロに	
GOAL3	すべての人に健康と福祉を	Good health and well-being
GOAL4	質の高い教育をみんなに	Quality education
GOAL5	ジェンダー平等を実現しよう	Gender equality

授業科目とSDGsの関連の「有」「無」をご登録ください。
 「有」の場合、SDGsの17の目標ごとに、『「◎」非常に関連性がある』もしくは『「○」関連性がある』を最低1つ選択しご登録ください(最大3つまでを目安)。
 「自由記述欄」は任意で関連性を入力した理由についてご記入ください。(2022年度より追加)

■担当する授業科目に関連した実務経験を有しているか、もしくは実務経験者が指導に関わっているか / Instructor's work experience related to the course you are in charge of

はい/Yes

・経験がある場合は、実務経験年数を入力する。
 ・大学における教員としての実務(勤務)経験は除く。
 ・If yes, fill out how many years of work experience you have regarding the relative field of this course.
 ・Work experience as an instructor at a university / college shall be excluded.

実務経験年数 / Years and/or months of work experience
 年/year(s) 月/month(s)

実務経験年数をご記入ください(2020年度より追加)。

実務経験の内容を具体的にご記入ください。

・オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合も対象となる。
 ・「実務経験の内容」には、担当者の実務経験の内容とともに、何回目の授業を担当するかを明記する。
 ・該当の授業回の欄に、実務経験に基づいたどのような授業を行うかを記入する。
 ・Above information is also required for omnibus courses which instructors from various companies are invited as guest lecturers.
 ・For "Detail of Instructor's work experience," please mention which class the instructor is in charge of, together with the detail of the instructor's work experience.
 ・Details of each class instructed by the invited lecturer shall be mentioned up to the number of classes corresponding to the work experience.

実務経験の内容と授業内容との関連をご記入ください。※記入例 別紙参照

担当教員の実務経験の内容(200字)

Detail of Instructor's work experience (200 characters)

実務経験に関連する授業内容(400字)

Classes based on work experience (free)

■授業計画・内容 (*)

回数		内容
1回目	講義内容	講義内容は15回(週2回授業は30回)分、全員ご記入
	事前事後学習の内容など	
2回目	講義内容	
	事前事後学習の内容など	
4回目	講義内容	
	事前事後学習の内容など	

各回の「事前事後学習」の内容などをご記入ください

Course Syllabus (*)

		Content
Class 1	Lecture contents	
	Self-study-Assignments	
Class 2	Lecture contents	
	Self-study-Assignments	
Class 3	Lecture contents	
	Self-study-Assignments	
Class 4	Lecture contents	
	Self-study-Assignments	

※全員、詳細にご記入ください

■評価・試験方法 / Evaluation・Assessment (*)

種別	割合	評価基準	Evaluation Criteria (Explanation)
定期試験 Final Exam	100 %		
中間試験 Midterm	%		
レポート Papers	%		
実技・作品等 Performance/Works	%		
日常点(小テスト・課題等) Continuous Assessment (quizzes, assignments, etc.)	%		
その他 Other	%		
備考 Remarks about grading			

評価基準: 種別ごとに詳細を記入ください

半期 4 単位科目は、中間試験の有無を明記下さい

割合: 種別ごとに割合 (%) を占める % を記入してください。
★「出席点」や「出席状況」等で、○% という記載はしないで下さい。
例) 「日常点 (小テスト・課題等)」、「その他」、「備考」欄には、「授業への参加度」等として下さい

【ヘルプ】割合入力について:

【割合入力】の欄への入力は、半角整数でお願い致します。
数字以外が入力された場合、その割合のデータは登録されません。

Note:

Please input the percentage in the box above (in hankaku).

■評価方法 / Grading Method: ABC評価

■教科書

講義で使用するものを入力し、教科書を使用しない場合は、その旨を入力下さい

追加書籍(書名、著者名、出版社、出版年、版、価格など)
Input Course Materials : (Book Title, Author, Publisher, Publication Date, Edition, Price, etc.)

【ヘルプ】英訳書誌情報について:
英語シラバスを入力される方へ
教科書の書誌情報に全角文字(日本語や中国語など)が含まれる場合、英訳書誌情報へその英訳を入力して下さい。

To those who enter the English syllabus
If the bibliographic information contains two-byte characters (such as Japanese and Chinese), then enter its English translation in English bibliographic information.

書誌情報
bibliographic information

英訳書誌情報
English translation bibliographic information

↓ 追加 / Add

備考:

Remarks Column:

【ヘルプ】教科書入力について:

追加方法 ・書籍情報(書名、著者名、出版社、出版年、版、価格など)入力後に「↓追加」を必ずクリックして下さい。
・「↓追加」ボタンクリック後、「追加書籍」入力欄の下にその情報が表示されます。

修正方法 ・書誌情報を編集する場合は、書籍情報右の「修正」をクリックして下さい。
・タイトル・備考欄に書籍情報が表示されますので、修正後に「↓修正」をクリックして下さい。

削除方法 ・一度追加した情報を削除したい場合は、書籍情報右の「削除」をクリックして下さい。

表示順序変更方法 ・書籍一覧の左側に表示される番号は、シラバスの画面に表示される順番となります。
・表示順を変更するには、「▼」をクリックし、表示したい順番を指定して下さい。

・書籍情報以外は、備考欄に入力下さい。
・申請/一時保存時に、それらの情報が更新されます。

How to Add ・Please make sure to click "Add" button after entering bibliographic information (Book Title, Author, Publisher, Publication Date, Edition, Price, etc).
・After clicking "Add" button, the input information appears just under input column.

How to Update ・If modifying bibliographic information, please click [Update].
・Book information will appear in the title remarks column, click the ↓ Update after correction.

How to Delete ・If you want to delete the book information, click the [Delete] button located on the right side of books information.

How to change the display order ・The number shown in the right side of book list is the order to display on the syllabus page.
・To change the display order, click pull-down menu and select the desired order.

・Non-book information, please enter in the remarks column.
・Those information is updated in the system when "Submit" or "Save" button clicked at the bottom.

■参考書

追加書籍(書名、著者名、出版社、出版年、版、価格など)
Input Reference Materials : (Book Title, Author, Publisher, Publication Date, Edition, Price, etc.)

【ヘルプ】英訳書誌情報について:
英語シラバスを入力される方へ
参考書の書誌情報に全角文字(日本語や中国語など)が含まれる場合、英訳書誌情報へその英訳を入力して下さい。

To those who enter the English syllabus
If the bibliographic information of reference book contains two-byte characters (such as Japanese and Chinese), then enter its English translation in English bibliographic information.

書誌情報
bibliographic information

英訳書誌情報
English translation bibliographic information

↓ 追加 / Add

備考:

Remarks Column:

【ヘルプ】参考書入力について:

- 追加方法** ・書籍情報(書名、著者名、出版社、出版年、版、価格など)入力後に「↓追加」を必ずクリックして下さい。
 ・「↓追加」ボタンをクリック後、「追加書籍」入力欄の下にその情報が表示されます。
- 修正方法** ・書誌情報を編集する場合は、書籍情報右の[修正]をクリックして下さい。
 ・タイトル・備考欄に書籍情報が表示されますので、修正後に「↓修正」をクリックして下さい。
- 削除方法** ・一度追加した情報を削除したい場合は、書籍情報右の[削除]をクリックして下さい。
- 表示順序変更方法** ・書籍一覧の左側に表示される番号は、シラバスの画面に表示される順番となります。
 ・表示順を変更するには、「▼」をクリックし、表示したい順番を指定して下さい。
- ・書籍情報以外は、備考欄に入力下さい。
 ・申請/一時保存時に、それらの情報が更新されます。

- How To Add** ・Please make sure to click "Add" button after entering bibliographic information (Book title, Author, Publisher, Publication Date, Edition, Price, etc).
 ・After clicking "Add" button, the input information appears just under input column.
- How to Update** ・If modifying bibliographic information, please click [Update].
 ・Book information will appear in the title remarks column. Please click [Update] after correction.
- How to Delete** ・If you want to delete the book information, click [Delete] button located on the right side of books information.
- How to change the display order** ・The number shown in the right side of books information is the order to display on the syllabus page.
 ・To change the display order, click [▼] button and select the desired order.
- ・Non-book information, please enter in the remarks column.
 ・Those information is updated in the system when "Submit" or "Save" button clicked at the bottom.

全員ご記入ください。200字程度。特に〇〇Ⅱ等の科目で、〇〇Ⅰを履修してからでない講義に支障をきたす場合は「〇〇Ⅰを履修している方が望ましい」という表現で入力下さい

■履修上のアドバイス

Advice for Prospective Students

『毎回の授業に必要な事前事後学習時間』を示してください。(2020年度より必須化)

※毎回の授業に必要な事前事後学習時間(小テスト、レポート、課題など) / Estimated time to prepare and to review for each class session. (incl. assignments, tests, papers, etc): (*)
 大学設置基準では2単位科目の場合、4時間が基準となります。
 4 hours of self study are required for 2 credits courses according to University Establishment Standards.
 - 時間/hrs 分/mins

■アクティブラーニング実施の有無 / Active Learning in class : (*)

【ヘルプ】
 科目の一部もしくは全部でアクティブラーニングが実施されている場合は「あり/Yes」、該当しない場合は「なし/No」を選んで下さい。
 Please check "あり/Yes" if Active Learning is implemented in the class. Select "なし/No" if Active Learning is not implemented.

ディスカッション、ディベート / Discussion and/or debate

グループワーク / Group Work

プレゼンテーション / Presentation

実習、フィールドワーク / Practicum and/or Field Work

協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 / Problem Based Learning(PBL) in cooperation with external organizations

その他 / Others
 自由記述

本学ではアクティブラーニングを「学生の能動的な学びを促進する教育方法を用い、教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生が相互に刺激しあう機会を設けている授業」としています。授業の一部または全部で行っている場合は「有」を、していない場合は「無」を選択してください。「有」の場合は、具体的に授業内容を記述してください。

■授業や自主学習支援にICTを活用するかどうかの有無 / Will you use ICT for class or to support self-learning? : (*)

ポータルサイト(フォーラム、アンケート)を利用 / Portal site (forum, questionnaire) for class or self-learning

クリッカーを利用 / CLICKER

PC教室・CALL教室での授業、または授業の中でノートPC、タブレットなどを利用 / Lectures in PC classroom or CALL classroom, or use of notebook PC, tablet devices, etc. in class

その他 / Others
 自由記述

ICTを活用し、授業の一部または全部を行っている場合は「有」を、していない場合は「無」を選択してください。「有」の場合は、具体的に授業で実施している内容にチェックを入れてください。

■課題（中間試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 / How to give feedback for assignments (mid-term exams, reports, etc.) : (*)

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける / Make time to review or explain in class
- 授業時間に限らず、ポータルシステムの機能や電子メールを利用してフィードバックを行う。 / Give feedback outside of class, such as using portal site functions or via email
- 試験やレポート等について、添削、返却をおこなう / Correct and return tests or reports

(2020年度より必須化)

■授業で使用する言語 / Language used in class : (*)

【ヘルプ】 :
 授業で使用する言語すべてにチェックして下さい。
 「その他 / Other(s)」を選ぶ際、その右の欄に使用する言語を入力して下さい。その場合、必須項目となります。
 Please check all the language(s) that is used in the class. If you check "その他 / Other(s)", please fill in the language(s) in the column.

※「授業で使用する言語」を、チェックボックス形式で入力します。複数の言語で行う場合は複数チェックしてください

- 日本語 / Japanese
- 英語 / English
- ドイツ語 / German
- フランス語 / French
- 中国語 / Chinese
- スペイン語 / Spanish
- イタリア語 / Italian
- ハングル / Hangul
- ロシア語 / Russian
- その他 / Other(s) 言語名 Name of the Language

■履修するために必要な語学スコア基準

※基準がある場合はご記入ください。

Language score requirement for class registration

■担当者のプロフィール

Instructor Profile

■定員ならびに履修者選抜方法

Enroll

定員を設定する授業は、履修選抜方法と定員の明示をお願いします。※抽選方法・抽選実施週を必ず記載下さい

■科目ガイダンスビデオ:

選択されていません。
The video is not chosen.

科目ガイダンスビデオを選択する
Set the GuidanceVideo

日本語シラバス 申請
Submit Japanese Syllabus

日本語シラバス 一時保存
Save Japanese Syllabus

(*)印は必須項目になります。必須項目を入力しないと、申請ができません。

英語シラバス 申請
Submit English Syllabus

(*)Items with an asterisk (*) are required. You cannot submit without entering the required items.

科目ガイダンスビデオの選択
 「科目ガイダンスビデオを選択する」ボタンをクリック後、該当ファイルを選択、シラバス情報として登録することが可能（英語シラバス専用の入力画面も同様）です。選択画面が現れ、担当授業でガイダンスビデオを収録済の授業名が表示されます。選択する場合は、[選択] ボタンをクリックします

一覧画面にもどる / Return to course list

共通科目ラーニング・アウトカムズと細目（例示）

ラーニング・アウトカムズ	ラーニング・アウトカムズの細目（例示）
1. 人文・社会・自然科学、健康科学領域の基礎知識を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 各科目に応る。
2. 多面的かつ論理的に思考する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一つの事象を多面的に考察することができる。 ● 問題・課題の本質を推察できる。 ● 定量的または定性的な根拠にもとづき、論理的に思考できる。
3. 問題解決に必要な知識・情報を適切な手段を用いて入手し、活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 倫理や法律を守り、知識・情報を収集できる。 ● 適切な知識・情報を、問題解決のために有効活用できる。
4. 日本語による多様な表現方法を習得し、明瞭に論じ述べる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 論述文において、文章作成の基礎作法に基づき、論点が明らかな文章を作成することができる。 ● プレゼンテーションにおいて、明確に論点を伝えることができる。 ● 討議において、他者の見解の考察を踏まえ、自身の見解を伝えることができる。
5. 英語と母語以外の他外国語でコミュニケーションを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現に必要な基本的な語彙を知っている。 ● 基本的な文法を理解している。 ● コミュニケーションのための基礎的な技能を身につけている。
6. 学びの意味や社会的責務を考え、自らの目標を設定し、自立(律)的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「何のために学ぶのか」との問いかけに、自分なりの考えや意見をもっている。 ● 目標を設定し、計画的に学習することができる。 ● 主体性をもって課題を発見し、学習することができる。
7. 自他の文化・伝統を理解し、その差異を尊重する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自らの文化や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。 ● 自分とは異なる立場や属性をもった人と議論ができる。 ● 他者の意見を傾聴し、その文化や伝統から学ぼうとする姿勢がある。
8. 人類の幸福と平和を考え、自己の判断基準をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の平和など人類の課題について関心を持ち、学ぼうとしている。 ● 自分の立場や考えを、説得力を持って述べるができる。

各学部のラーニング・アウトカムズ

経済学部

1	経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる	By applying the principles of economics, logically understand and analyze social phenomena from multifaceted viewpoints
2	数量的・統計的データを正確に理解することができる	Accurately understand quantitative and statistical data
3	日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる	Develop a good solid knowledge about the Japanese and global economy and different societies, and apply such knowledge
4	経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる	Accurately understand other points of view in Japanese and English, and clearly communicate their own ideas concerning economic issues
5	世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる	Understand the diversity of the world and the many-facets of economic and social issues and engage in reasoned discussion
6	経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる	Develop self-discipline through the study of economics, and cooperate with others to achieve goals
7	社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる	Suggest approaches and initiatives for the development of society and people's happiness through economics

法学部

1	わが国の法制度・政治制度の基礎となる価値観や基本原則を正確に理解しており、法律上または政策上の問題に対して具体的で的確な判断ができる能力。	Ability to make a concrete and accurate judgment on legal or policy problems after accurately understanding the values and basic principles that form the foundation of our legal system and political system.
2	社会が直面する法律上または政策上の課題がいかなる性質のものかを正確に特定・分析し、そしてその解決のためにはいかなる選択肢がありうるのかを見極め、課題解決の方法を考え出し、わかりやすく伝えることができる能力。	Ability to accurately identify and analyze the nature of the legal or policy challenges facing society, to come up with options and methods to solve it, and to convey it in an easy-to-understand manner.

前ページから続く (法学部)

3	英語および第2外国語を学修し、諸外国の様々な価値観や利害の異なる他者の多様な見解を理解するとともに、意見の異なる他者との議論を通じ、コンセンサスを得るための努力をすることができる能力。	Ability to make an effort to gain consensus, through learning English and second foreign language, understanding "various values of foreign countries" and "diverse views of others with different interests", through "discussions with others with different opinions"
4	身につけた知識を総合的に活用し、社会の中の新たな課題にそれらを適用し、創造的なアイデアを通してその課題を解決する方法を考えることができる能力。	Ability to think about ways to solve problems with creative ideas by applying comprehensively the knowledge gained and applying that knowledge to new tasks in society.

文学部

1	人間と社会と文化に関する基礎的教養と専門的学術を修得し、諸事象を精確に理解し、鑑賞し、評価することができる。	To have acquired fundamental education and expertise in the humanities, social sciences, and culture and be able to properly understand, appreciate, and evaluate human affairs.
2	母語および外国語を用いて、的確で豊かな自己表現とコミュニケーションを行うことができる。	To be able to self-express and communicate ideas freely and accurately in Japanese and foreign languages.
3	基礎的・専門的学知に基づいて、新しい知識と表現を創造することができる。	To be able to develop new knowledge and expressions based on basic and expert knowledge.
4	論理的に思考し、適切な方法で情報の取得と処理を行い、物事の的確な判断ができる。	To be able to think logically and obtain and handle information in an appropriate manner and make accurate judgments.
5	文化の多様性を尊重しつつ、世界市民として、生命の尊厳と平和を志向する。	While respecting cultural diversity, to seek world peace and dignity of life as a global citizen.
6	学ぶことの意味を理解し、自律的学修者として、目標をもって自己の成長を図る。	To understand what it means to learn, to cultivate the ability to be a self-learner, and to strive to grow as a person by setting and achieving goals.
7	人間主義の社会に向かって、他者と協力する姿勢やリーダーシップを発揮する。	To show leadership and cooperation with others with the goal of building a humanistic society.

経営学部

1	社会へ貢献する意志を有し、人間主義経営の理念と社会的責任を理解・習得している。	With a strong will to contribute to the society, students will be able to understand and embody the ideals of Soka's humanistic approaches to management and social responsibility.
2	現代経営に必要な基礎的知識を有し、経営の仕組みを理解して、その知識やスキルを習得している。	Students will be equipped with the basic knowledge and skills of management necessary to implement contemporary management.
3	社会的課題に関心をもち、自らもそれを発見して、他者に的確に伝える能力がある。	Students will be able to find a personal interest in social challenges and address the issues in the way others can correctly understand them.
4	その課題の中にある人間や社会にとっての意味や価値を洞察し問題解決能をする能力がある。	Students will be able to gain a deep insight into the social significance of these issues and take action to solve them.
5	ビジネス英語の基礎的知識・コミュニケーション能力を有し、ビジネスや社会で活用する能力がある。	Students will be able to exercise their basic knowledge and skills of English in their business communication and elsewhere.
6	多様性を受容する力を持ち、世界市民としてグローバルな視野で他者と協働する能力がある。	Students will be able to accept diversity and work harmoniously with others from the standpoint of global citizens.
7	問題解決に必要な情報を自ら収集・分析し、論理的に探究しながら、価値を創造してゆく能力がある。	Students will be able to gather and analyze the necessary information to solve problems, investigate them critically and logically, and create value out of their inquiry.
8	チームで主体的・能動的に活動し、ディスカッションなどを通じて様々な資源や知見を統合する能力を身につけている。	Students will be able to integrate various resources and perspectives of others through their group activities such as discussion, working voluntarily and actively in a team.

教育学部

1	教育学または心理学に関する基本的な知識及び方法を修得する（知識・理解）	To learn basic knowledge and methods on pedagogy or psychology (knowledge, understanding)
2	世界の事象を教育的な問題として捉えることができる（知識・理解）	To be able to grasp world events from an educational viewpoint (knowledge, understanding)
3	世界の諸問題と自身との関係を考える（考える力）	To be able to understand the relationship between self and problems in the world (ability to think)
4	教育学的・心理学的諸問題の解決方法を構想する（考える力）	To be able to conceive solutions to pedagogical and psychological problems (ability to think)
5	教育学的・心理学的諸問題の解決へ向けて取り組む（行為する力）	To be able to address solving pedagogical and psychological problems (ability to act)
6	教育学的・心理学的諸問題の解決へ向け、他者と協働しながら取り組む（行為する力）	To be able to cooperate with others towards solving pedagogical and psychological problems (ability to act)
7	絶えず自己の成長を追求する態度を持つ（態度）	To have a positive attitude towards constantly pursuing self-growth (attitude)
8	他者の成長に対する責任感と倫理性を持つ（態度）	To have responsibility and ethics towards supporting the growth of others (attitude)

理工学部

1	専門分野の知識を理解し、活用できる。	Students are able to learn the knowledge necessary in the specialized field and utilize it.
2	探求心や好奇心を持ち、広範囲の媒体から知識を収集できる。	Students are able to have an inquiring mind/intellectual curiosity and collect the related knowledge from a wide range of information media.
3	課題や問題点を分析し、批判的/創造的思考を通して、解決できる。	Students are able to analyze the issues/problems and solve them through critical/creative thinking.
4	グループ内でコミュニケーションがとれる。	Students are able to communicate with each other in a group.
5	自らの意見・主張を正しく説明・記述することができる。	Students are able to properly describe opinions and claims of their own.
6	自己管理のもと、能動的に行動し、リーダーシップを発揮することができる。	Students are able to actively take an action under their self-management and display their leadership.
7	倫理観を持ち、社会的貢献・責任を意識できる。	Students are able to have a sense of ethics and be aware of the social contribution and responsibility.
8	国際社会への貢献を意識できる。	Students are able to be conscious of their contribution to the international communities.

看護学部

1	対象を全人的に捉えるための分析・統合力を活用する基本能力	Fundamental competencies to utilize analytical and integrative abilities to grasp individuals holistically.
2	生命の尊厳を基盤としたヒューマンケアの基本的能力	Fundamental competencies for care to human based on the dignity of life.
3	生命力を引きだす慈愛の看護を科学的根拠に基づき実践する能力	Competencies in compassionate nursing practice based on scientific evidence to bring out life forth.
4	特定の健康課題に対応する創造的な実践能力	Competencies in creative practice to respond to specific health problems.
5	多様なケア環境とチーム体制のための人間力を基盤とする実践能力	Competencies in practice based on humanity in diverse care environment and for collaborative healthcare delivery teams.
6	専門職としてグローバルな視点で生涯にわたり研鑽する能力	Competencies in life-long learning from a global perspective as a professional.

国際教養学部

1	人文・社会科学の分野での必要な学術知識を得る	acquire academic knowledge across the fields of humanities and social sciences
2	量的・質的研究法を身につけ、研究に活用できる	develop skills in quantitative and qualitative research methodologies
3	人文・社会科学にわたる知識を基盤として、教員の指導下で研究を行うことができる	conduct directed research based on knowledge from across the fields of humanities and social sciences
4	学術的な論述、討論、プレゼンテーションができる高度な英語運用力を身につける	develop advanced English language skills to conduct academic writing, discussions and presentations
5	文献講読、論述、討論、プレゼンテーションを通じて、批判的思考を身につける	develop critical thinking and analysis skills through reading, writing, discussion and presentation
6	多様な文化的背景を持つ人々と協働できる異文化理解力を身につける	develop cross-cultural understanding to collaborate with individuals from diverse cultural backgrounds
7	課題を発見し、解決にむけて取り組むことができる	identify issues and work towards solutions

(別紙) 実務経験の有無についての入力例

※実務経験は過去現在を問わず、学内外、資格の有無は問いません。

(入力フォーム)

■担当する授業科目に関連した実務経験を有しているか、もしくは実務経験者が指導に関わっているか / Instructor has work experience in the relative field of this course.:

はい/Yes

・経験がある場合は、実務経験年数を入力する。
 ・大学における教員としての実務(勤務)経験は除く。
 ・If yes, fill out how many years of work experience you have regarding the relative field of this course.
 ・Work experience as an instructor at a university / college shall be excluded.

実務経験年数 / Years and/or months of work experience

年/year(s) ヶ月/month(s)

・オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合も対象となる。
 ・「実務経験の内容」欄は、担当者の実務経験の内容とともに、何回目の授業を担当するかを明記する。
 ・該当の授業回の欄に、実務経験に基づいたどのような授業を行うかを記入する。
 ・Above information is also required for omnibus courses which instructors from various companies are invited as guest lecturers.
 ・For "Detail of Instructor's work experience," please mention which class the instructor will be in charge of, together with the detail of the instructor's work experience.
 ・Details of each class instructed by the invited lecturer shall be mentioned under the corresponding class explanation in the course syllabus.

担当教員の実務経験の内容(200字)	Detail of Instructor's work experience. (100 words)
実務経験に関する授業内容(400字)	Course Syllabus based on work experience(free)

担当教員に実務経験がある場合

実務経験の内容：メーカーの知財部門で特許申請業務に5年間携わる

実務経験に関連する授業内容：特許制度の基本的な知識と手法、特許を用いた研究成果の保護・活用の考え方について講義する

実務経験の内容：企業カウンセラーとして、労働安全衛生分野において心理相談業務に従事

実務経験に関連する授業内容：国内の労働環境の変化や国としての取組み、企業内での業務の位置づけなどを概括し、具体的なカウンセリング事例をとおして、キャリアにおける心の健康づくりについて解説する

実務経験者が指導に関わる場合

実務経験の内容：様々な分野の企業や組織の経営者

実務経験に関連する授業内容：

関係する業界・企業についての解説、組織経営の体験に基づいたリーダーとしての生き方について講演

※第2回から第14回の授業内容に、講演者・テーマを記します

実践的な教育内容の科目の場合

インターンシップ、実習など実践的な科目については、本項目にチェックを入力してください。

実務経験の内容、実務経験に関連する授業内容欄について未記入で結構です。

「実務経験のある教員による授業科目」について（参考）

文部科学省 2018 年 11 月提示の FAQ から抜粋した内容です。本内容は現時点の考え方を示したものと
として提示されていますので、ご参考ください。

（実務経験のある教員による授業科目の配置）

Q「実務経験のある教員による授業科目」とはどのような授業科目を指すのですか。

A 担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、
実践的教育を行っていることが必要です。（実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わり
がなく、授業に実務経験を生かしているとは言えない場合は対象とはなりません。）

また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、オムニバス形式で多様な企業等から講師
を招いて指導を行う授業や、学外でのインターンシップや実習、研修を中心に位置付けている授業など、
主として実践的教育から構成される授業科目については、実務経験のある教員による授業科目に含むも
のとしします。

どのような実務経験をもつ教員がその教員の担当する授業科目にどのように活かしているか、大学等が
シラバス等において学生等に対して明示していることが必要です。

Q「実務経験」は、過去の経験でも良いのでしょうか。現在携わっている必要はないのでしょうか。

A 過去の実務経験であっても、現に実務に携わっている場合であっても、いずれでも構いません。また、
実務経験のある時期や期間についても定めを設ける予定はありませんが、実践的教育を行うという要件
設定の趣旨を踏まえ、大学として説明責任を果たせる授業科目を計上して下さい。

Q「実務経験のある教員」は他大学と兼務でもよいですか。

A 差し支えありません。常勤教員でなくとも、非常勤教員でもかまいません。

Q「学外での勤務経験があれば、実務経験のある教員と言えますか。

A 学外であるか否かよりも、担当する授業科目の教育内容と関連した実務経験であることが重要です。
逆に、学内での実務経験であっても、例えば、大学附属病院の医師や看護師が教員として実務に関連し
た内容の授業科目を担当している場合には、実務経験のある教員による授業科目に該当します。

Q「資格があれば、実務経験のある教員と言えますか。

A 資格があれば直ちに該当するわけではなく、現に実務に携わった経験があり、それと関連した内容の
授業科目を担当していることが必要です。

Q「オムニバス形式の授業を対象として計上する場合、どの程度の回数で外部から講師を招いていれば認
められるのでしょうか。基準はありますか。

A 回数などの基準を特に設ける予定はありませんが、大学・学校として対外的に責任を持って、実践的
教育であると説明できることが必要です。

Q 担当教員に実務経験がなく、実務経験のある教員や企業等からの講師等も関わっていないものの、内容としては実践的教育であると考えられる場合、「実務経験のある教員による授業科目」として認められますか。

A 実務経験のある他の教員や企業等の協力を得ていれば、担当教員に実務経験がなくとも「実質的に実践的教育が行われている」と捉えることもできますが、そうした要素が全くなく、単に「実践的である」との主張だけでは要件を満たしたとは言えないと考えられます。

Q シラバスにはどの程度の詳細に記載しなければなりませんか。教員の経歴などを詳細に記載する必要がありますか。

A どの科目が、実務経験のある教員の授業科目であるかが学生等に分かることが重要です。履修を選択する学生等にとって「どのような実務経験をもつ教員が、その実務経験を生かして、どのような教育を行っているか」が明確に分かるかどうかという視点に立って、記載内容を検討してください。

Q 「実務経験のある教員による授業科目」であることは必ずシラバスに記載する必要がありますか。

A どの授業科目が「実務経験のある教員による授業科目」であるか、学生等が分かるように、授業方法や内容、到達目標等とあわせて、シラバスに明記いただくことが必要です。